

**会員事業所景況実態調査令和3年10月～令和3年12月分集計結果**  
**調査依頼数:549 回答数 93 回答割合:16.9%**

令和3年度3回目の会員事業所景況実態調査の調査結果について下記のとおりに報告いたします。  
 調査結果については、今後の要望・提言活動や経営相談に活用してまいります。  
 ご回答いただいた事業所の皆様、お忙しいなか、ご協力ありがとうございました。

**★DI値とは**

各項目について、増加・好転(仕入単価:下落、従業員:不足)と回答した事業所の割合から  
 減少・悪化(仕入単価:上昇、従業員:過剰)と回答した事業所の割合を減じた数値。  
 ゼロを基準とし、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で  
 景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

**【質問 A】 前年同時期と比較した10月～12月の景況**

	項目	増加・好転	不変	減少・悪化	合計	DI値	前回DI値	対比増減
全体	売上	23	32	37	92	▲ 15.2	▲ 14.7	▲0.5
	採算	15	41	36	92	▲ 22.8	▲ 23.5	0.7
	仕入単価	0	36	56	92	▲ 60.9	▲ 55.2	▲5.6
	従業員	23	67	3	93	21.5	16.4	5.1
	業況	11	49	32	92	▲ 22.8	▲ 22.4	▲0.4
	資金繰り	3	74	16	93	▲ 14.0	▲ 13.4	▲0.5
建設・建築業	売上	5	11	8	24	▲ 12.5	▲ 11.1	▲1.4
	採算	4	12	7	23	▲ 13.0	▲ 27.8	14.7
	仕入単価		8	16	24	▲ 66.7	▲ 61.1	▲5.6
	従業員	9	14	1	24	33.3	33.3	0.0
	業況	3	13	8	24	▲ 20.8	▲ 33.3	12.5
	資金繰り	1	20	3	24	▲ 8.3	▲ 33.3	25.0
製造業	売上	5	3	7	15	▲ 13.3	16.7	▲30.0
	採算	3	8	5	16	▲ 12.5	8.3	▲20.8
	仕入単価		3	12	15	▲ 80.0	▲ 75.0	▲5.0
	従業員	3	12	1	16	12.5	25.0	▲12.5
	業況	5	5	6	16	▲ 6.3	25.0	▲31.3
	資金繰り		13	3	16	▲ 18.8	0.0	▲18.8
卸・小売業	売上	4	4	7	15	▲ 20.0	▲ 38.5	18.5
	採算	3	6	6	15	▲ 20.0	▲ 46.2	26.2
	仕入単価		8	7	15	▲ 46.7	▲ 46.2	▲0.5
	従業員	3	11	1	15	13.3	16.7	▲3.3
	業況	1	9	5	15	▲ 26.7	▲ 53.8	27.2
	資金繰り	1	11	3	15	▲ 13.3	▲ 8.3	▲5.0
飲食・サービス業	売上	5	6	6	17	▲ 5.9	▲ 18.8	12.9
	採算	2	7	8	17	▲ 35.3	▲ 25.0	▲10.3
	仕入単価		10	7	17	▲ 41.2	▲ 50.0	8.8
	従業員	2	15		17	11.8	6.3	5.5
	業況		9	8	17	▲ 47.1	▲ 20.0	▲27.1
	資金繰り		15	2	17	▲ 11.8	▲ 6.3	▲5.5
不動産・その他	売上	4	8	9	21	▲ 23.8	▲ 22.2	▲1.6
	採算	3	8	10	21	▲ 33.3	▲ 22.2	▲11.1
	仕入単価		7	14	21	▲ 66.7	▲ 37.5	▲29.2
	従業員	6	15		21	28.6	▲ 11.1	39.7
	業況	2	13	5	20	▲ 15.0	▲ 22.2	7.2
	資金繰り	1	15	5	21	▲ 19.0	▲ 11.1	▲7.9

**(全体)**

前回DI値と比較して増減はほとんどありません(プラス5.1～▲5.6ポイント)。仕入単価のDI値が▲60ポイント以上となり、ほとんどの業種でマイナスポイントが非常に高くなっている。特に製造業、建設・建築業、不動産・その他業種が顕著である。

**(建設・建築業)**

売上、仕入単価以外は前回より改善しており、特に資金繰りでは20ポイント以上、採算、業況では10ポイント以上改善している。一方、仕入単価は前回より若干悪化しているが、DI値が依然として▲60ポイント以上と非常に高くなっている。

**(製造業)**

従業員以外は前回より悪化しており、特に売上、業況は30ポイント以上、採算は20ポイント以上悪化している。売上、採算、業況、資金繰りでは、DI値がプラスからマイナスに転じている。仕入単価では、前回からはほとんど悪化はしていないが、DI値は▲80ポイント以上となり、全業種で一番DI値のマイナスポイントが高くなっている。従業員は人手不足が若干解消されている。

**(卸・小売業)**

仕入単価、資金繰り以外は前回より改善しており、特に採算、業況は20ポイント以上と大きく改善している。ただし、DI値は依然として▲20ポイント以上となっている。仕入単価では、ほとんど悪化はしていないが、DI値は▲40ポイント以上と依然高くなっている。

**(飲食・サービス業)**

売上、仕入単価以外は前回より悪化しており、特に業況は20ポイント以上悪化し、DI値も▲40ポイント以上と高くなっている。その他のDI値では、仕入単価が▲40ポイント以上、採算が▲30ポイント以上と依然として高くなっている。

**(不動産・その他)**

業況以外は前回より悪化しており、特に従業員は40ポイント近く、仕入単価は30ポイント近くと大きく悪化している。DI値も仕入単価が▲60ポイント以上と非常に高くなっており、従業員は人手過剰から人手不足に転じている。

**【質問 A】 12月と比較した1月～3月の先行き見通しについて**

	項目	増加・好転	不変	減少・悪化	合計	DI値	前回DI値	対比増減
全体	売上	9	38	45	92	▲ 39.1	▲11.8	▲27.4
	採算	7	42	43	92	▲ 39.1	▲20.9	▲18.2
	仕入単価	0	28	63	91	▲ 69.2	▲58.2	▲11.0
	従業員	24	63	5	92	20.7	23.9	▲3.2
	業況	5	49	38	92	▲ 35.9	▲22.1	▲13.8
	資金繰り	1	74	18	93	▲ 18.3	▲13.4	▲4.8
建設・建築業	売上	3	10	11	24	▲ 33.3	▲16.7	▲16.7
	採算	1	13	9	23	▲ 34.8	▲16.7	▲18.1
	仕入単価		5	19	24	▲ 79.2	▲66.7	▲12.5
	従業員	9	13	2	24	29.2	44.4	▲15.3
	業況	1	12	11	24	▲ 41.7	▲27.8	▲13.9
	資金繰り		19	5	24	▲ 20.8	▲27.8	6.9
製造業	売上	1	6	8	15	▲ 46.7	8.3	▲55.0
	採算	1	7	8	16	▲ 43.8	▲25.0	▲18.8
	仕入単価		1	13	14	▲ 92.9	▲75.0	▲17.9
	従業員	3	10	2	15	6.7	25.0	▲18.3
	業況	1	8	7	16	▲ 37.5	0.0	▲37.5
	資金繰り		13	3	16	▲ 18.8	0.0	▲18.8
卸・小売業	売上	1	4	10	15	▲ 60.0	▲30.8	▲29.2
	採算	2	4	9	15	▲ 46.7	▲33.3	▲13.3
	仕入単価		5	10	15	▲ 66.7	▲46.2	▲20.5
	従業員	2	12	1	15	6.7	16.7	▲10.0
	業況	2	7	6	15	▲ 26.7	▲30.8	4.1
	資金繰り		11	4	15	▲ 26.7	▲8.3	▲18.3
飲食・サービス業	売上	3	8	6	17	▲ 17.6	▲6.3	▲11.4
	採算	2	8	7	17	▲ 29.4	▲18.8	▲10.7
	仕入単価		10	7	17	▲ 41.2	▲50.0	8.8
	従業員	2	15		17	11.8	18.8	▲7.0
	業況		10	7	17	▲ 41.2	▲25.0	▲16.2
	資金繰り		15	2	17	▲ 11.8	▲6.3	▲5.5
不動産・その他	売上	1	10	10	21	▲ 42.9	▲11.1	▲31.7
	採算	1	10	10	21	▲ 42.9	▲11.1	▲31.7
	仕入単価		7	14	21	▲ 66.7	▲50.0	▲16.7
	従業員	8	13		21	38.1	0.0	38.1
	業況	1	12	7	20	▲ 30.0	▲22.2	▲7.8
	資金繰り	1	16	4	21	▲ 14.3	▲22.2	7.9

**(全体)**

従業員以外は前回より悪化し、特に売上は30ポイント近く悪化する見通しである。DI値は仕入単価が▲70ポイント近く、売上・採算も▲40ポイント近くと非常に高くなる見通しである。一方、従業員は若干人手不足が解消される見通しである。

**(建設・建築業)**

従業員、資金繰り以外は前回より悪化する見通しである。DI値は仕入単価が▲80ポイント近く、業況が▲40ポイント以上、売上、採算が▲30ポイント以上と非常に高くなる見通しである。従業員はDI値が30ポイント近くあるが、前回より人手不足が大きく解消される見通しである。

**(製造業)**

従業員以外は前回より悪化し、特に売上は50ポイント以上、業況は30ポイント以上と大きく悪化する見通しである。DI値も仕入単価が▲90ポイント以上、売上、採算が▲40ポイント以上と非常に高くなる見通しである。一方、従業員は20ポイント近く改善し、人手不足が大きく解消される見通しである。

**(卸・小売業)**

従業員、業況以外は前回より悪化し、特に売上は30ポイント近く、仕入単価が20ポイント以上と大きく悪化する見通しである。DI値は売上、仕入単価が▲60ポイント以上、採算が▲40ポイント以上と非常に高くなる見通しである。一方、従業員は人手不足が大きく解消される見通しである。

**(飲食・サービス業)**

仕入単価、従業員以外は前回より悪化し、DI値では、特に業況は▲40ポイント以上、採算は▲30ポイント近くと高くなる見通しである。一方、仕入単価は前回より若干改善はしているが、DI値は依然として▲40ポイント以上と高くなる見通しである。

**(不動産・その他)**

資金繰り以外は前回より悪化し、特に売上、採算、従業員は30ポイント以上と大きく悪化する見通しである。DI値は、仕入単価は▲60ポイント以上、売上、採算は▲40ポイント以上と非常に高くなる見通しである。従業員は適正から人手不足感に転じ、非常に高くなる見通しである。

